

令和3年平和祈念滋賀県戦没者追悼式 知事式辞

本日ここに、令和3年平和祈念滋賀県戦没者追悼式を挙げるにあたり、滋賀県民を代表し、謹んで哀悼の心とともに式辞を述べます。

先の大戦が終結して、76年の歳月が過ぎました。この戦いでは滋賀県出身の32,715名の尊い命が奪われ失われました。それぞれに夢あり、洋々たる前途ある多くの若者が、ここ滋賀県から送り出され、遠い異国の地において、海で、島で、森で、ある方は赤道直下の猛暑の中、ある方は極東の厳寒の収容所で、祖国の安泰と繁栄を願い、故郷を想い、ご家族を案じながら亡くなりました。どんな想いでいらしたでしょうか。

肉親やご家族を失われ、残されたご遺族のお気持ちや戦後の塗炭のご苦勞を想うとき、今なお胸がしめつけられます。

大津市内の膳所公園には、このような戦没者の慰霊のために建立された「滋賀県戦没者英霊塔」があり、毎月、滋賀県遺族会の皆さんが清掃や法要を行っておられます。私も先日、寸時でございましたが、一緒に清掃活動をさせていただき、そのもとにあるご英霊の位牌に手を合わせました。今年3月に亡くなられた山田利治元遺族会元会長の「この場所での祈りを大切にしてほしい」というお声が聴こえるようでした。

この他にも、県内には、慰霊碑や戦争遺跡が100か所以上存在します。これらの戦跡などを訪れ、大地に刻まれた戦争の痕跡を目のあたりにし学ぶこと、戦地に赴かれた方々のことを忘れず祈ることで、改めて

繰り返してはならない凄惨な歴史とその中で果敢に生きてこられた方々、現代の平和に思いをはせたいと考えております。

また、滋賀には平和祈念のシンボルである〈滋賀県平和祈念館〉を設置し、今年で10年目を迎えます。ご遺族から貴重な遺品の数々やかけがえのない様々な体験談をお預かりし、戦争の記憶の継承や平和学習の普及推進を担う拠点としております。

これらは、貴重な資源・資料であり、今後も次世代に末永く大切に引き継いでいかなければならないと考えております。

私は、これまでから滋賀県遺族会主催の沖縄、フィリピン、サイパンの戦跡慰霊巡拝にご一緒させていただき、それぞれの地での慰霊とともに、ご遺族の平和に対する強い思いを伺ってまいりました。戦後80年、100年と平和な時代を引き継いでいくためにも、今後も他の戦跡を、まだ十分果たせていない地も含めて巡拝させて頂き、慰霊と平和祈願を引き続き行ってまいる所存であります。

本日は、新型コロナウイルスの感染対策のため、参列者数を絞り込んだうえでの式典となりましたが、今年度から新たに式典の模様を県内に、全国に、世界にウェブで同時配信をしております。

本日の式典が、若い世代の方々の目にふれ、歴史をひもとき、先の大戦とは何だったのか、平和を実現するために、一人ひとりが何をなすべきか考えていただくきっかけとなることを期待いたします。さらには、一步、そとへ世界へ目を向け、戦争がなくなる日を、「誰一人戦争犠牲者とならない、取り残さない世界」を自分たちが作るんだという強い意

思を持ち、歩みを始めてほしいと願っております。

終わりに、この式典にあたり、二度と戦争の惨禍を繰り返さないという決意を新たにいたしますとともに、今なお紛争の絶えない世界情勢のなかで、「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」「友好交流の貴重さ」を次代に語り継いでいくことを、ここに固くお誓い申し上げまして、式辞といたします。

令和3年8月28日

滋賀県知事 三日月 大造